

# 城北中学校・高等学校 (男子校)

## 学校新聞を通じて生徒の声を届ける 自主的に始まった「杏壇報」の発行

「着実・勤勉・自主」を校訓とする城北中学校・高等学校。「人間力」を育てる部活動や委員会活動が、教育の柱の1つとなっています。今回は、自主的に学校新聞「杏壇報」を発行し、日々校内での取材などに奮闘する図書委員会のみなさんにお話をうかがいました。

「やりたい」にチャレンジできる  
環境が自主性を伸ばす

Q 城北中学校・高等学校(以下、城北)の図書委員会と学校新聞「杏壇報」について教えてください。

田畑さん 図書委員会の活動として、図書館でのカウンター業務、城北祭(文化祭)での古本市などのほか、「読書のすゝめ」という冊子を年2回発行しています。それに加えて、昨年から「杏壇報」という学校新聞を発行するようになりました。佐藤さん 「読書のすゝめ」や「杏壇報」は図書委員会のなかの「役員」が発行に携わります。私もそこで本の紹介文などを執筆したかったのですが、役員になりました。

近藤さん 「杏壇報」の発行は、私が役員になったとき、「読書のすゝめ」を毎週発行してはどうかと提案したのがきっかけです。

田畑さん 図書館の利用者を増やしたかったので、すぐおもしろいアイデアだと思いました。でも、毎週発行するのは大変だということになり、話し合いの結果、月2回「杏壇報」を発行することに決めました。

佐藤さん 調べてみたら、40年ほど前に新聞委員会主導で「城北新聞」を出していたようです。それが廃刊となつてから、生徒たちがかわる学校新聞が発行されていないことがわかりました。

田畑さん そこで生徒が主導で新たに学校新聞を作りたいという思いか

ら、城北新聞の復刊ではなく、「杏壇報」を発行ことにしたんです。近藤さん この名前は、孔子が教えを説いたといわれる場所「杏壇」に由来し、城北の創設者の深井鑑一郎先生が儒学者であったことも理由の1つです。

Q 「杏壇報」を発行して、よかったですや苦労したことはなんですか？

佐藤さん 制作は私と近藤さんがリーダーとして2班に分かれ、交互に担当しています。「月1回なら余裕」と思いましたが、企画を考え、取材して原稿を書くことは、想像以上に大変でした。体調をくずす活動できなかったときは「締め切りに間に合わない！」とどれだけ焦ったか。最近はずいぶん文章力が上達している

のではないかと感じています。また、校内での認知度が上がり、「読んだよ！」と声をかけられることも増え、やりがいにつながっています。

近藤さん 最初はほかの委員の校正で指摘を受けることも多かったのですが、次第に少なくなり、成長を実感できて嬉しいです。

田畑さん 私は図書委員長として全体を統括していますが、月2回の発行を8名しかいない役員で回すのは大変です。そのため、もっと仲間を増やしたいと思っています。

Q 今後、どのような「杏壇報」を

発行していきたいですか？

近藤さん 選挙で新生徒会長が決まったときに発行した号外が好評でした。これからも部活動紹介を兼ねた新人生歓迎号など、様々な企画を考えています。

佐藤さん いまは自分たちで写真を撮っています。体育祭などの行事の際には、写真部とコラボしてよりよい紙面を作れたらいいですね。

Q 「杏壇報」の発行を通じて感じた、城北のよさを教えてください。

佐藤さん 私たちが「杏壇報」を発行したいと先生方に伝えたとき、す

ぐに賛成してくれました。「やりたいことはチャレンジしてよい。ただし、勉強もしっかりするように」というメリハリのある指導が城北のよさです。行事も盛りだくさんで、日々新しい発見があり楽しい学校です！近藤さん 先生と生徒の距離が近いのは、城北のいいところだと思います。私は釣り部にも所属しているのですが、どちらの顧問の先生も話しやすく、よく相談に乗ってくれます。田畑さん 先生が生徒思いであるところが城北のよさです。急遽合宿をしたいと相談したときも、すぐに許

可を出してくれました。先生が生徒の自主的な活動に寛容だからこそ、生徒は伸びのびと力を発揮できます。

学校説明会 [要予約]  
5月2日(土) 5月9日(土)  
5月30日(土) 6月6日(土)

学校見学ツアー [要予約]  
5月9日(土) 5月23日(土)

城北祭(文化祭) [要予約]  
9月26日(土) 9月27日(日)

※詳細は事前に学校HPにてご確認ください

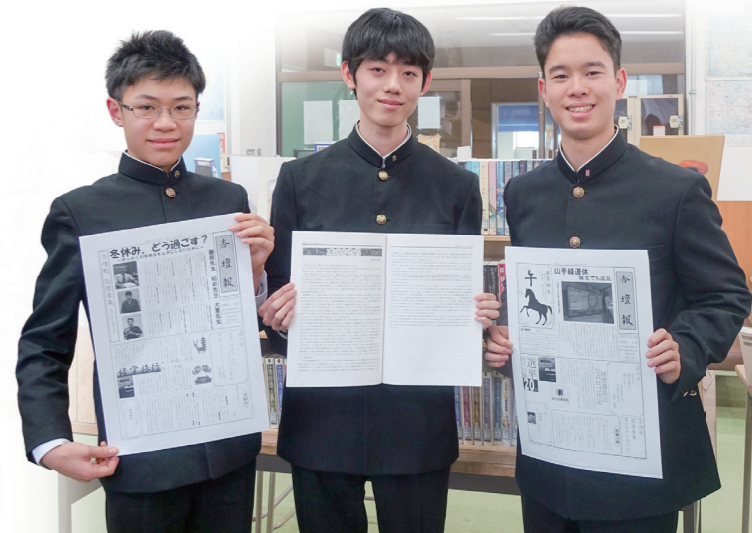
所在地:東京都板橋区東新町2-28-1  
アクセス:東武東上線「上板橋駅」徒歩10分、地下鉄有楽町線・副都心線「小竹向原駅」徒歩20分  
TEL:03-3956-3157  
URL:https://www.johoku.ac.jp/



②中高共通の図書館で、蔵書は約6万冊。雑誌は部活動関連のものを中心に50種以上も。試験前になると自習で利用する生徒も多くなります。

④図書委員会が半年に1度発行する機関誌「読書のすゝめ」(写真は特装版)。図書委員が、おすすめの本をわかりやすく紹介しています。

中学3年生 近藤文治さん  
高校2年生 田畑裕理さん  
高校1年生 佐藤峻太郎さん



### 「杏壇報」ができるまで



#### 1 企画・立案

各班の企画方針の違いがおもしろさに

制作は2班に分かれて担当。「佐藤班は時事ネタ中心で、新聞らしい見出しの使い方などに工夫を凝らしているのが特徴です。近藤班はインタビュー中心の内容で読みやすく、「杏壇報」と生徒の距離を近づけることに役立っています。企画方針の違いが「杏壇報」のおもしろさにつながっていると思います」(田畑さん)

#### 2 取材・執筆

班ごとに取材し原稿を準備

テーマや取材内容が決まったら、リーダーから班員に文字数と締め切りが伝えられる仕組み。「インタビューのときはメールで依頼し、日程などを決めて取材します」(近藤さん)

#### 3 レイアウト作成

読みやすい紙面を意識

プロも使用するInDesignと、Canvaでレイアウトを作成。「見出しのつけ方や大きさなどを参考にするため、新聞にもよく目を通すようになりました」(佐藤さん)



#### 4 編集会議・校正

間違いがないよう何度も確認



紙面ができあがると、全員で記事を読んで話しあい検討します。「校正を重ねるうちに文章がよくなってくと『もうすぐ完成だ!』とワクワクします」(近藤さん)。最後は顧問の先生のチェックを経て完成!

#### 5 印刷・発行

中・高の各教室に掲示

校長先生の承認を得て、正式な学校刊行物となった「杏壇報」は、各教室に掲示されます。「友達から『杏壇報は図書委員が作っているんだって?!』と声をかけられたときは、本当に嬉しかったです」(佐藤さん)

